

群馬つつじ会だより

発行 令和4年3月1日
群馬県精神障害者家族会連合会
(群馬つつじ会)
〒371-0843
群馬県前橋市新前橋町13-12
群馬県社会福祉総合センター7F
TEL 027-289-9647
FAX 027-289-9648
E-mail gunmatutuji_k@ybb.ne.jp

第38号



「出前講話の足跡と実践報告」

会長 吉邑 玲子



近年、世界的にコロナ禍や地球温暖化の中、格差社会が広がり問題視されていることが報じられています。さらに現在、連日の世界の悲惨なニュースにも胸が痛みます。社会的にみると貧困や戦争に巻き込まれて明日の命も分からない人たち、安心して住む場所もなく放浪している人たちを、時に思いやる必要を感じます。精神疾患についても、いろいろな境遇の人達が罹患することになります。

“家族”のしほりだけでなく、社会の問題とする方向が求められるのではないかと感じます。

そう考えると、将来、専門職に就く人々は大切です。つつじ会として、7年来積極的に行っている出前講話について報告します。

対象は看護学校中心に医療、福祉系の学生や、行政職や福祉医療の専門職、家族会関連、民生委員とさまざまです。受講者の数は2000名を超えています。

対象者により内容は多少変わりますが、30分から90分で、当事者や他の家族、専門職の方と2人で組む場合もあります。対面を重視し、パワーポイントは使わず、簡単なレジюмеと群馬つつじ会だよりやアンケート結果等の資料を配布しています。

講話の概要は以下のようになります。

- ① 家族会の活動の3本柱について。
 - ・癒し合い ここでは病気のこど、困っていることを分かってもらえる場。
 - ・学習 医療や福祉の制度。家族の対応の仕方。
 - ・運動 行政への要望書。特に精神科特例について
- ② 「家族の思い」を資料や体験を交えて話す。
- ③ 共存社会について。“障害者”も“福祉”という言葉も無く、人々は自然に役割を持って暮らしていた共存社会があった。現代社会での細分化した専門職の存在は、患者にとって本当の共存社会と言えるのか。現在の医学の有難さは認めるが、結果として病人はどの程度救われているのか。
- ④ (学生)に求めること。様々な経験をして人間力を磨いてほしい。人間業の大切さと、資格の枠を超えた考え方、患者への対応を望む。

以上のような骨子で話しました。

最近精神保健福祉士を目指す学生対象に話をした時、指導される先生の熱さもあり、以下のような質問が出ました。

- ① 「偏見について、人付き合い等どうしているか」
- ② 「地域では、どのように周囲へ理解を求めているか」
- ③ 「親は他のきょうだいにどの程度分かってもらおうとするのか」

若い方々の熱心な問いかけに、将来への明るい希望がもて、良い時間を過ごせました。

表彰おめでどうございます！

令和3年度 群馬県社会福祉協議会会長表彰 しらかば会 塚田 かつ子さん

長年にわたり障害者、家族を支え、家族会役員として多くの功績を残され感謝申し上げます。

テーマ「今、出来る事を考えるパート2」

昨年度から延期続きの研修会「今出来る事を考えるパート2」を実施できました。

まず、会長より、コロナ禍での活動や会計報告、残る今年度の活動、みんなねっとの動きについて報告がありました。

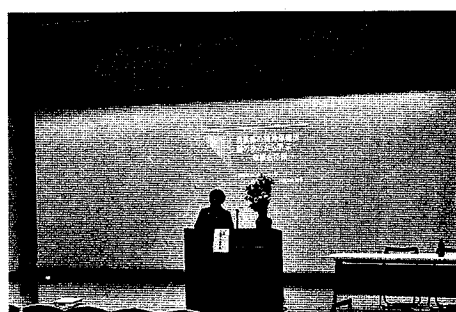
午前の部(リーダー研修会)

講演「群馬県の精神保健活動」

元県保健師 小此木 久美子 氏

講演の中で、戦後「精神衛生法」として法制化され精神障害の発生に関する予防がとりあげられていた。当時は、公衆衛生として伝染病の予防がメインと想像される。しかし、「予防」という言葉をそのまま現在にあてはめてみれば、精神疾患の患者数は増加の一途をたどり、原因も解明されておらず、抛って予防対策は図れないのは致し方のないことになる。家族会員の多くの当事者が、長期の病状を抱えたままだが、仮に予防措置が取れるとすれば、10～20歳前後に焦点を当てた「こころの健康」に向けた環境整備がなされなければならないと思う。

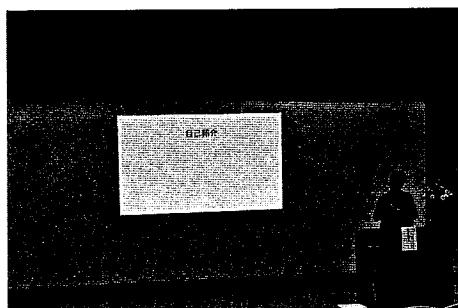
(たけのこ会 福島 渉)



午後の部(普及・啓発講座)

体験発表「私のたどった半生」～ヤングケアラーとして

あんなか兄弟姉妹会ケセラセラ・あざみ会会員 田口 高雄 氏



小学1年生の時に母親、続けて姉と兄の3人が統合失調症を発症、そして父親は認知症、そのことを聞いただけで驚き、「良く自分を見失わずにケアしてこられたなあ」と感心しました。私は息子一人が統合失調症を発症しただけなのに戸惑っているが、田口さんは長い間誰にも話せず日々生きづらさを感じ、切ないことだろうと思いました。

社会からヤングケアラーが美談扱いされる事が、余計に本人を苦しめているという視点があるという話に、「そうか」と思いました。私は安心できる居場所である家族会に入り、楽になった思いがあります。苦難を抱える中で兄弟姉妹会を立ち上げる凄さに驚きました。

(群馬つつじ会だより 36号に田口氏の体験が掲載されています。)

(よつば会 根岸 國雄)

講演「親亡き後の生活の見通し」～障害年金を中心に～

社会保険労務士 浅田 均氏

非常にわかりやすい研修会で、特に将来必要なお金の見える化の表がとても参考になりました。障害年金認定は、診断書が大きな決め手になるため、当事者のみの認定されないケースが多いため、家族も時には当事者に同席し、医師に日常の様子をしっかりと伝える事の大切さを改めて感じました。

最後に、法改正やいろいろなサービスに敏感になる事や、親亡き後、当事者のためにお金は残さなくても、障害年金があればどうにかなるといふ話に少し安心できました。



(よつば会 根岸 恭子)

みんなねっと東京(全国)大会に参加して

(オンラインリモート) 令和3年10月7日

社会福祉総合センターにて視聴。基調講演の「当事者と家族がいきいきと地域で暮らしていくために」を聞き、日本の精神障害者の置かれた現状、未だ医療給付も不十分で家族に負担をかける体制であり、患者を病院から地域に移行するシステムが急がれる。また、オープンダイアログ・高EE低EE・8050問題等の広範な話がありました。

私は今72歳、再発入院中の39歳の息子と妻の3人で暮らしています。息子が50歳までに自立出来るようグループホーム等について勉強し、本人と話し合っ行ってきたいと思いますが、8050問題は、切実です。地域包括システムが1日も早く構築され安心して暮らせることを願っています。

(あざみ会 Y・N)



<前橋会場(13名)での視聴の様子>

今年の大会はコロナ感染防止のため、オンライン視聴となった。伊勢崎市の「明清会ベルガモット」にて体験。初めてのオンライン視聴で期待する中、11時にいよいよ始まった。

最初は声だけ聞こえて画像が写らない等トラブルもあったが、すぐ回復。オープニングアトラクショ



<伊勢崎会場(6名)での視聴の様子>

ン「多摩草むらの会」の音楽隊のコーラスから始まり、みんなねっと理事長岡田久実子氏と、東京都家族会会長真壁博美氏の主催者挨拶、祝辞では東京都知事小池百合子氏のビデオメッセージ等があった。午後の部は①基調講演「当事者と家族がいきいきと地域で暮らしていくために」②みんなねっと活動報告③特別講演「首都東京の精神医療を考える」～都立松沢病院の取り組み～。耳の悪い私にとってパソコンから流れてくる音量は聞き取りにくいところがありましたが、収穫のあった体験でした。

(たけのこ会 N・Y)

みんなねっと主催「家族相談交流会」

(ズームミーティング)

2月5日(土)午後1時から、各自宅で参加しました。家族相談のためのスキルを学び、日々の相談活動に役立てるために開催され、つつじ会として8名(全国70名)が参加しました。当日を迎える前に各自「e-ラーニング研修」を受講しての参加でした。当日は、7グループに分かれリーダーを中心にフリートーク形式での実施でした。

○相談員の感想…「①学びの機会を持つことの必要性を感じた ②相談員には覚悟がいる。(自己研鑽・訓練・演習・実践)この繰り返しの努力が必要。 ③相談員は心身ともに健康でタフである事」

みんなねっとからは、相談員の情報の共有とフォローアップ体制の必要性、相談会の財政基盤の確保の話があり、また来年度もこのような研修会・交流会を持ちたいとのことでした。

私たち群馬県連のやり方を再確認し、さらに今後会員にも広く学ぶ機会を持ちたいと思います。

(相談員 N)

令和4年度 群馬県委託事業

家族会員による家族相談のお知らせ (無料) (心に病を抱えている家族をお持ちの方)

面接相談

時：4月2日・5月7日・6月4日・7月2日
9月3日・10月1日・11月5日・12月3日
1月7日・2月11日・3月4日
(土曜日の午後1時30分～3時30分)
場所：群馬県社会福祉総合センター(相談室)
前橋市新前橋町13-12
(JR新前橋駅下車徒歩5分)
お問合せ：電話予約での申し込み(事務局)

電話相談

時：毎週水曜日
午前10時～午後3時
場所：群馬つつじ会事務局
※ご家庭内の問題、ご自身の悩み等お気軽にお電話ください。家族会員が、ご相談を受けします。
※個人情報、固く守ります。

群馬県精神障害者家族会連合会(群馬つつじ会事務局)

電話 027-289-9647 (月)(火)(水)(金) 9:30~15:30

お世話になりました ～森下雄三さんを偲んで～

元つつじ会会長森下雄三さんが昨年12月1日にお亡くなりになりました。

地元館林のたけのこ会の会長を6年、群馬つつじ会会長を8年、みんなねっと理事2年を務められました。その優れたリーダーシップで「精神障害者の自立に向けた環境づくり」と「障害者を抱える家族支援」の取り組みをされ、住みやすい社会の実現に向けて活動されてきました。また、県の数々の役職にも就かれ、県全体の福祉施策にも寄与されました。

事務局を置いた県社会福祉総合センターでの家族会の位置を確立しても下さいました。

私たちの代が、前会長の体調不良により急遽10月に引き継ぎ心細かった時、色々相談にのって頂きました。大変感謝しております。

ご家庭におかれましては、神田生まれの森下さんと伴走された奥様とは、とても素敵なお夫婦でした。謹んでご冥福をお祈り致します。

(会長 吉邑)

精神保健福祉士の役割と全国大会について

群馬県精神保健福祉士会
〔(医) 群馬会 くわのみハウス〕
横澤 岳志

皆様は、「精神保健福祉士」と聞いて、誰か特定の人の顔を思い浮かべることが出来るでしょうか？

私ども精神保健福祉士は、様々な事情で「生きづらさ」を抱えた当事者の方々にかかわり、その方々の生活する環境に働きかけて、誰もが自分らしく生きられるように、側面から支えていくことを生業としています。

最近では医療機関や障害福祉サービス事業所をはじめとした様々な分野で働いております。つづじ会の皆様とは、一緒に活動させていただいた経緯もあり、深いつながりを感じているところでございます。当事者やご家族の皆様へのお手伝いとして、例えば、「病院で医師に十分時間を取ってもらえず話し足りない・相談し足りない時、退院後の福祉サービスの利用調整や具体的な手続き・住むところの確保など安心して地域で暮らせるような準備、その他経済的な支援策の活用について等」一緒に考えさせていただきます。

現在、社会には様々な問題が山積しており、「ごく当たり前の生活」を営む権利を脅かされるような情勢になっております。この数年のコロナ禍がその状況に拍車をかけているのではないのでしょうか。精神保健福祉士の対応や支援内容に関して、疑問やご不満がごありの場合は、どうぞご遠慮なくご指摘ください。そういった皆様からの厳しくも暖かいお言葉が、私ども精神保健福祉士を育てていただけると確信しております。

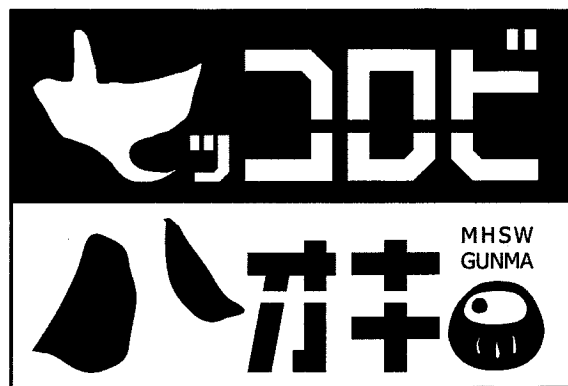
県内初の全国大会を開催

日 程 9月2日(金)～3日(土)

場 所 Gメッセ群馬

テーマ

「七っ転び八起き
～自分らしさを
発揮できる社会を目指して～」



プログラム

- 1日目 午前は、司法ソーシャルワークの実践報告、午後は、厚生労働省による行政説明・日本精神保健福祉士協会会長による基調講演・記念企画等。
- 2日目 分科会は、精神保健福祉に関する最新の研究発表や全国の仲間たちの実践報告・並行して市民公開講座を開催予定。様々なプログラム用意しますので、ご期待ください。

家族の日々の思い

いずみ会会員

息子二人兄弟の長男が病気で。小学生の頃は、おとなしく、いい子で親に反抗などする子供ではなかった。こういう事が病を持っていたとはわかりませんでした。

高校に通うようになり、誰かが俺を見ているなどと言いはじめました。高校は卒業し、専門学校もやっと卒業できましたが、ますます病気が進み、精神科にみてもらい分裂病(当時)と言われてショックでした。

就職も印刷会社にパートで行っていましたが、長く続かずに退職しました。私達親も働いていましたので息子をずっとみてやれず、病気がこんなに進むとは思いませんでした。治る病気と思っていました。

息子も50才になり親も80才目前です。今後、親亡き後を考えるとグループホームなどに入居できるかどうかわかりません。

精神の病が他の医療同様に治る医療に向けて研究をしていていただきたいと願うばかりです。去年のパラオリンピックを見て、手や足がなくても水泳で金メダルを取ったこと、とても感動しました。精神も負けずにガンバローです。

◎ 家族会紹介 ◎

しらかば会(作業所)のあゆみ

本会は、昭和56年にデイケアとして開始され、家族の集いを隔月開催し、平成10年には、家族会結成に向け準備委員会を実施し(しらかば会)として発足しました。また、平成11年には、始めて「しらかば会会報創刊号」も発刊、平成12年には近くの畑を借りて作業所の開設めざし楽しく作業した事もなつかしい思い出です。そして平成13年4月に「吾妻郡精神障害者共同作業所しらかば会」として開所、平成17年7月に草津町保健福祉センター内に「西部しらかば作業所」を開設する事もでき、現在は社会復帰支援施設として体制を整えました。

また、平成18年10月18日をもって「特定非営利活動法人しらかば会」として法人格を所得し、町村の「地域活動支援センター事業」の運営を受託出来る事となりました。今後も障害福祉の充実を図るため、家族会一同努力していく所存です。(会長 塚田)

賛助会員を募集しています

群馬県精神障害者家族会連合会では、この会の活動にご賛同いただける一般の方、関係機関の方などへ、賛助会員としての入会を呼び掛けています。

ぜひ当会の活動にご理解いただき、たくさんの方が、ご協力くださいますようお願いいたします。

お問い合わせは群馬つつじ会事務局までお願いいたします。専用の振込用紙をお送りいたします。

活動内容はホームページをご覧ください。
(<https://gunmatutuji-kai.jimdo.com>)

賛助会費一回2,000円

賛助会員のご紹介(順不同・敬称略)

【団体】 明清会・ゆずりは会・群精社協・橘会

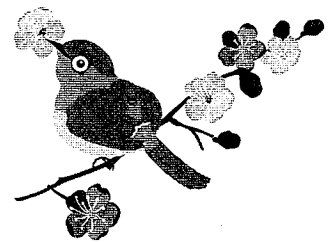
coco-kara・サンピエール病院

【個人】 小川 一夫・佐藤 浩司

岩崎 祥子・伊勢田 堯

【匿名】 8名

ご協力ありがとうございました。



< 編集後記 >

コロナ・コロナであつという間に2年が過ぎ、明るい春がやってきました。各種会議や会員研修もリモートを活用する機会も増え、時代の進歩を感じる今日この頃です。今後も会員・賛助会員などの皆様のお役にたてるような紙面にしていきたいと思ひます。

「群馬つつじ会だより」へのご意見・ご要望をお待ちしています。
(野沢)

上毛新聞厚生福祉事業団<愛の募金>助成